

備後

教区報

第 175 号

2021(令和3)年10月10日



ご縁を慶び、お念仏とともに

CONTENTS

- ◆公聴会報告
- ◆人権に関する連続研修
- ◆報公団法座（比婆組妙延寺）
～近角常観と真田増丸の書簡～
- ◆ルポ SNS 活用（鹿児島別院）
- ◆News & 活用情報
- ◆予報・インフォメーション

親鸞聖人 御誕生

50
立教開宗
00

親鸞におきてはただ念佛して弥陀にたすけられまゐらすへしとよきひとのおほせをかぶりて
信ずるほかに別の仔細なきなり念佛はまことに浄土にうまゐるたねにてやはんべるらん（歎異抄）

親鸞におきてはただ念佛して弥陀にたすけられまゐらすへしとよきひとのおほせをかぶりて
信ずるほかに別の仔細なきなり念佛はまことに浄土にうまゐるたねにてやはんべるらん（歎異抄）
人また地獄におつて業をやらん然してして存知せざりたりたと
い法然上人はすかしをわけて念佛して地獄におちたりたりと後悔すなり候
辛亥八月二十六日 尾野法契清嘱

靈界冥々として例うべからず 自然法爾は無義の義なり
渺々たる蒼海の一粟 凡小は何すれど仏慧を知らん
山間 忽ち落ちる花一輪 長江萬里水上に浮かび
飄然として去来し彼岸に到る 人生百年光は悠々たり
辛亥八月 為尾野常範法兄

2021(令和3)年度

公聴会



新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が再び発出される都道府県が増加するなか、今年度の公聴会は、動画配信によるオンライン視聴で開催された。

【公聴会とは?】

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要に向け、その意義の周知と機運の向上を図るとともに、現在、宗派で検討をすすめている組織改革等を行うに至る背景と必要性について説明し、広く寺院関係者の皆様からご意見・ご提言を伺う。今回の公聴会はインターネットで意見聴取を行い、教務所できりまとめた後、本山へ送る。

【学び】

ご親教「浄土真宗のみ教え」をいただいて

浄土真宗本願寺派総合研究所の満井秀城副所長より、本年4月15日、立教開宗記念法要後にご門主よりお示しいただいたご親教『浄土真宗のみ教え』について、そのお味わいをお話くださった。

浄土真宗のみ教え
南無阿弥陀仏
「われにまかせよそのまますぐの弥陀のよび声
わだしのうほとけ
私の煩惱と仏のそとよりは本来一つゆえ
そのまますぐの弥陀のよび声
ありがとうといただいて
この愚身をまかすこのまますぐ
救い取られる自然の浄土
仏恩報謝のお念仏
み教えを依りどころに生きる者となり
少しづつ執わの心を離れます
生かされていることに感謝して
むさぼりいかりに流されず
穏やかな顔と優しい言葉
喜びも悲しみも分かち合い
日々精一杯とめまします

【報告及び意見聴取】

◆宗務の現況について

① 新型コロナウイルス感染症感染拡大状況における得度習礼・教師教修等について

僧侶養成部・波佐谷真悟部長より、2020年3月以降の新型コロナウイルス感染症感染拡大における得度習礼・教師教修の経緯及び現状について報告があった。

2020年3月期の得度習礼・教師教修については、感染拡大に伴う対応措置として自主学習にて行われた。4月以降は、宿泊部屋のパーテーション補設や研修会場の座席間隔を2メートル程度確保するなどの対策を講じた上で、募集定員を50名としている。

② 「子どもたちの笑顔のために募金」について

重点プロジェクト推進室・岡寄秀恵部長より、御同朋の社会をめざす運動（実践運動）並びに重点プロジェクトの位置づけについて説明の後、宗門重点プロジェクトの実践目標に掲げる「貧困の克服に向けて」子どもたちの笑顔のために募金について報告があった。募金額は、第2回集計までで43,154,913円、支援先については、募金管理委員会での協議の上、国内外の子どもたちへの支援を行う団体や、本派児童養護施設連絡協議会加盟園や施設卒園者への支援に充てられている。

「子どもたちの笑顔のために募金」について



合計 43,154,913 円

第1回集計分 (2018年8月～2020年1月末) ￥21,108,941.-

第2回集計分 (2020年2月～2020年1月末) ￥22,045,972.-

※第3回集計分現況(2021年2月～2022年1月末)は￥10,795,579.- (8/24現在)



◆親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要について

法要庶務部・白川了信部長より、来る2023年にお迎えする親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要に伴う現在の主な取り組みについて説明があった。

2019年8月にこの度の慶讃法要の意義づけとなる趣意書が策定され、宗門が慶讃法要の在り方及び関連行事を考え、企画するうえからの課題として掲げられた付帯事項の一部を変更し、本年春の法要にてご門主よりお示しいただいた「浄土真宗のみ教え」の普及を加えることとなった。団体参拝については、現在の新型コロナウイルス感染拡大による調整遅延を考慮し、一次募集申込期間が2022年2月末まで延長され、それに伴い、二次募集受付開始が4月1日から変更になった。

その他、法要に関連する諸行事についてや、この度の法要を機縁とした「愛唱歌」の制作、各教区・組・寺院でのお待ち受け法要勤修についての説明があった。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要 「趣意書」付帯事項の一部を変更 (2021年7月)

1. 大きな感動につながる法要を
2. 伝わる伝道を
3. 『私たちのちかい』『浄土真宗のみ教え』の普及を
4. 社会に開かれた宗門へ
5. 具体的な社会実践として

「団体参拝」の申込み受付に関するスケジュール

- ・団体参拝＜一次募集＞の申込み受付期間

2021年10月1日～2022年2月28日

- ・団体参拝＜二次募集＞の申込み受付期間

2022年4月1日～2023年3月＜法要開始迄＞

◆新しい持続可能な宗務組織に向けた改革について

宗務組織機構改革推進本部事務室・中井真人部長より、新しい持続可能な宗務組織に向けた改革について、その背景と必要性等について説明があった。2015年からの宗門総合振興計画基本方針に掲げられる宗門の基盤づくりでは将来を展望し、持続可能な組織とするため、宗門財政を念頭に置き、短・中・長期的視点に立って宗務の精査・展開を図るべく、宗門財政構想委員会が設置され、具体的施策について協議が行われた。

その委員会より昨年10月、持続可能な宗務の規模・役割、宗務職制や人事施策に関する答申書「新しい持続可能な宗門組織をめざして」が提出された。答申書では外部機関による財務調査報告として、支出が常態的に超過している経常予算の収支バランスの問題点が報告されている。それに加え、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本願寺からの回付金も減少、早急な宗務体制の見直しが喫緊の課題となっている。これらのことを踏まえ、段階的な予算規模の縮小をもって、収支バランスの正常化を図るべく、「新たにめざす持続可能な宗務組織を構築するための具体策」を第37回常務委員会（令和3年8月開催）にて議決、課題の洗い出しを行うとともに、中・短期的の具体策を講じていくこととなる。

中期的具体策（2025年からの新制度始動をめざした諸施策）

- ①中央宗務機関（宗務所）及び地方宗務機関（教務所）における役割及びその分掌の明確化
- ②中央宗務機関（宗務所）から地方宗務機関（教務所）へ事務権限移譲と教化活動の分担化
- ③教務所長権限と責任領域の拡大

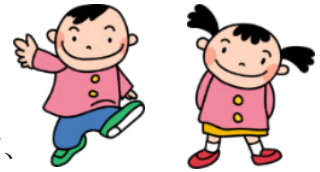
短期的具体策（直ちに具体的取り組みをもって始動させる諸施策）

- ①中央宗務機関の業務整理と宗務規模のスリム化をめざした目標値の設定
- ②宗務の質を維持できる新たな総合的人事施策の実施
- ③国際的教學機能の強化
- ④ITの積極的な導入と有効活用
- ⑤宗派、本山及び地方における収入増に向けた施策検討の着手
- ⑥宗務組織機構改革推進に向けた対応チームの編成

2021(令和3)年度・2022(令和4)年度 <備後教区 新しい時代の念仏者養成のための>人権に関する連続研修 —御同朋の社会をめざして—【差別やいじめのない社会に】【全6回】

1. 次代を担う念仏者の養成

—新たな時代に応じる力を総合的に育むために—



このたび、2021(令和3)年度から2022(令和4)年度にかけて、2カ年度にわたり全6回、教務所で連続人権講座を開催することとなりました。

宗門では次代を担う念仏者の育成が目指され、み教えの学習や新たな布教伝道の模索も進められており、その中で人権学習も重要な柱として位置づけられています。

また社会では **SDGs(持続可能な開発目標)** が掲げられ、多様な価値観を相互に重んじる新たな平等性が社会の目標とされてきています。

SDGsは「誰一人取り残さない」という考えをプロジェクトの中心に据えています。

このSDGsの理念に学び、参加者一人ひとりの理解に立った持続的な取り組みがより必要になっていると思います。

このたびの連続研修は、宗門や社会の方向に学び、基礎的でありながらみのり豊かな研修に持続して取り組んでいくことで、私たちもまた新たな時代にむかって脱皮しようとしています。

2. 人権研修のイメージを変え、私たちのためのものにしていく

—自分自身が少しでも何かを得ていける、変わっていく端緒となれるように—

皆さんは「**人権**」という言葉からどんなイメージを受けますか？ 大切なものでしょうか？ それとも、よく分からないけれど堅苦しい感じ、自分には近寄りがたいもの、関係のないものでしょうか。法務省のホームページにはつぎのように説明されています。わかりやすく、どうやって守るか示されています。

「人権とはすべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利、あるいは人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利であり、誰にとっても身近で大切なもの、日常の思いやりの心によってまもられるものだ」と私たちは考えています。」

この度の私たちの取り組みは、この法務省で掲げられている方向性を手掛かりに、いじめや差別などの課題を一つ一つ具体的に学ぶことはもとより、さらに体系的かつ総合的に連続して研修し、人権の大切さに気付き、守ることができるような研修を実現しようとしています。

具体的には、ワークショップなど体験的な時間を取り入れ、どんな方でも参加し、理解できることから、毎回何かを得ていく、楽しみのある豊かな研修会を進めます。

3. 第1回目は12月6日(月)、午後1時半より教務所で開催

第1回目はご講師に、辻由起子先生をお迎えし、子育てや家庭の現場から人権を考えていきます。辻先生は大阪府子ども家庭サポーターであり、大阪府子ども虐待防止アドバイザーとして活躍されています。

特にご自身の子育ての中の気づきから、子どもの人権を真剣に考えるようになった経緯は、私たちに大切な学びを与えて下さいます。

「誰もがしあわせになれる社会に 人権を考えるために子育て、児童相談の現場から」をテーマに本年(2021年)12月6日(月)に午後1時半から教務所で開催致します。

参加資格はありません。どなたでもご参加いただけます。 できれば連続して受講いただくことが大きな目標ですので、6回の受講を念頭にご応募下さい。また、試しに第1回目を受講しようと思われる方も遠慮なくお越しください。詳細は教務所までお尋ねください。



備後探訪 (報公団法座)

近角常観と真田増丸の書簡

庄原市 比婆組妙延寺(尾野義顕住職)は、社会福祉法人相扶会(老人ホームや保育園)を運営し、地域への貢献や社会奉仕活動が続けられる寺院であるが、この寺には一般の恒例法座とは別に100年以上の長きにわたって継続する「報公団」という名前の法座があった。

お寺に残る書簡・史料から報公団の発足と活動に大きな影響を与えたであろう二人の仏教者にスポットをあて、その活動のルーツを探ってみよう。(敬称略)(文責・教区報専門委)



▲報公団百周年大会

相扶会全景▶

「意義深い寺院の社会事業であり、宗教家の尊い使命」として発願されたという

ちかすみ じょうかん
近角 常観
(1870～1941)

東京大学(一高)の学生・知識人に内村鑑三と並び称された存在

近角常観は真宗大谷派の僧侶。

明治時代、欧州視察に赴いた独ベルリンにて史上初の「花まつり」(釈尊降誕会)を企画した一人であり、明治35年に帰国してからは東京の帝国大学前に「求道学舎」、大正4年には「求道会館」を設立して熱烈な布教活動を行った。

悩み煩悶する人間が絶対他力に救済される事を自らの入信体験を基に繰り返し説き、一人一人の信をとるための「求道」に生涯かけて尽力した。学生や青年層に感化が大きく『歎異抄』普及に大きく関与。アインシュタインが来日した際に、姥捨て山の話をして彼を感動せしめたという逸話も有名。

近年、岩田文昭(大阪教育大学)教授らにより求道会館に残る1万通もの書簡が研究分析され、古澤平作、嘉村磯多、宮沢賢治、三木清など知識人青年へ近角が与えた影響、日本思想史および日本精神史に関与が大きかったことが研究報告され、再評価・注目されている仏教者の一人といえるだろう。

キリスト教の内村鑑三先生とか、或いは仏教の近角常観先生とか、さういふ宗教的に優れた先達は、当時の一高生徒の掲示板に毎週のように講演することが現れて、私どもにとつて非常に親しいさういふ方々の名前であつた(哲学者・田辺元)内村鑑三先生の日曜講演にも通い、近角常観先生の門をもたいた。近角先生は私の煩惱に対し非常に同情され、自著「信仰の余瀝」を下さると共にトルストイの懺悔録を読むことを薦められた(岩波書店創業者・岩波茂雄)

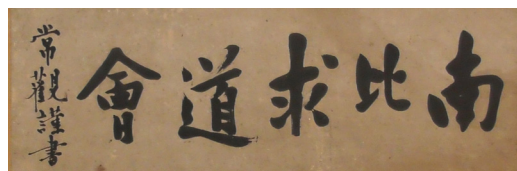
ちかすみ じょうかん
近角常観と報公団

この近角が妙延寺の「報公団」という仏教会の発足に関わっている。17世住職の尾野慈範が呼びかけ、念仏のころを基本に結成したという仏教団体である。

明治44年8月24日、26日に開催された「報公団」発団式総会には「東京求道会主 近角常観文学士」が来られ、3日間朝席から毎席、堂外に人が溢れる未曾有の大盛会であった、と伝えられている。

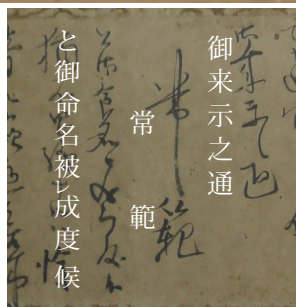
海外の宗教事情に明るく、全国各地で仏教青年会の発足や活動を牽引する近角の来錫は、地域に幅広い参画を促し、広く社会福祉を行う仏教青年団的役割を担った。

本誌表紙の漢詩と歎異抄の書はこのときに依頼されて書かれたものであるが、近角自身も妙延寺に「南比求道會」と扁額している。



▲扁額

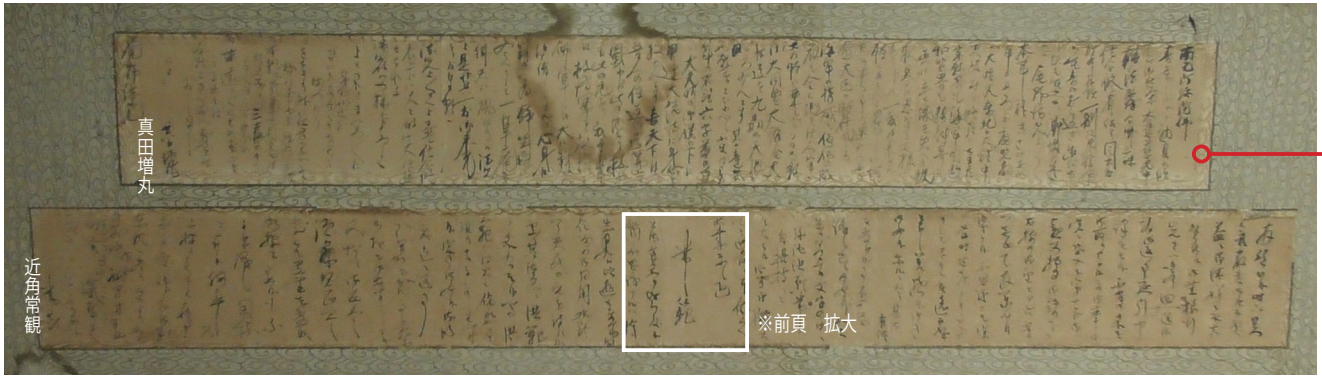
▶命名の書簡



それ故に近角の常の字を頂く許しを得て「常範(後の18世)」と名乗ったようだ。

南比婆の求道会といった意味であろうか？ まるで「ここに東京の近角常観と志を同じくする求道会があるのだ」という期待と情熱が読み取れるようである。

また慈範の子は明治41、43年頃に東京で近角の求道学舎に入居し、講演会等に参加、近角が刊行した『求道』雑誌にも寄稿文が掲載されるほど師を慕っていた。



そして近角の書簡と共に大切にされてきた書簡がもう一つあるので、内容を読んでみよう。

文面の鹿児島大噴火は20世紀最大の噴火災害・桜島噴火で、この前年に東北大凶作、同年4月に海軍の贈賄疑惑をめぐり内閣総辞職が起こっているため、この書簡は大正3年初夏のもので断定して良いだろう。

差出人は、ほぼ同時期に九州で「大日本仏教済世軍」(以下済世軍)を旗揚げし、大正期に最も熱烈な伝道を行った真宗僧侶と評価される**真田増丸**である。この名を知る人は極少数派であろうが備後にも教化があり、多くの僧侶に感化を残した。これは大正や済世軍の黎明期を伝える貴重な史料であると共に、令和に生きる我々にも熱が伝わる信仰書簡である。

報公団と真田増丸

さなだますまる

尾野常範は東京の求道学会と同様に、本派学系・豊前学派の東陽学寮で学んでおり、真田とは同門の先輩だったようだ。

また、大正元年に開催された報公団の第2回講話会講師には

南無阿弥陀佛 青葉しげれる初夏の候
愈御壮栄 大悲慈光中 轉法輪念佛三昧
仕念修省何より目出度難有事存候。

(愈々壮栄に大悲に包まれながら転法輪と念佛三昧に身を修められ何より目出度く有難い事と存じます。)

一別以来、随分御無音御打過ぎ、真に申し訳も無之、只慚愧の外無候。

(一度お会いしてから随分ご無沙汰しており、誠に申し訳なく、ただ恥じ入るばかりです。)

尾野御兄よくく。本年程なさない年があるうか 鹿児島の大噴火、東北の大飢饉、中央政府は修羅のちまた。

(尾野御兄よ、御兄御兄よ。本年ほどなさない年がありましょうか、鹿児島の大噴火に、東北の大飢饉、中央政府は修羅の巷で争いの場と化しています。)

宗教寄も海軍問題、物質寄も精神寄も真に立ち場を失へる現状、見るに忍びざる有様にあらかふ物一度は来らん時もあらんと思ひしに何ぞ其の来る事の速やかならん(宗教寄ⅡたよりとするⅡも海軍問題。物質寄も精神寄りのいずれも立場を失っている現状は見るに忍びない有様で、それに抗うものも一度は来ると思っていました。)

愈大正の時代なるが海軍の権威も僧侶の威厳も全く地もはらいむ。此の時に乗じてクリスト教は大同盟大聯合大伝道を九州の天地にこころみんとす其の意気や盛香て分るべし(愈々大正の時代になるが海軍の権威も僧侶の威厳も全く無くなった。これに乗じてクリスト教は大同盟大聯合大伝道を九州で試みようとしている。その意気込みが盛んに香るのは分かるでしょう)

小生は多年の宿望六字尊号の大光明の御旗の下に早辻大説法に身心を投せんとす(私は六字名号の佛の御旗の下に長年の望みであつた辻大説法に身心を投じようとしています。)

旁天下は吾人の伝道の道場なり 戦ふは此の地なり救ふも救世軍を救済する佛軍に候大に戦はん(かねて天下は我々の伝道の道場です。戦うのはこの地です。救うのも救済

軍を救済する仏の軍です。大いに戦いましょう。)

準備として先づ我心身と戦はん為、静座三昧に入らんとして一草庵を佛天に賜はり候 法兄よ是非共一度御来光被下度奉願候(準備としてまず我が心身と戦うため、静座三昧に入ろうと一草庵を如来の加護により賜りました。法兄よ、ぜひとも一度ご来訪ください。)

御兄上くくくよ 蓋し仕念修養の下ハ大々的に大伝道せられよ御養父様によろしく(御兄上兄上兄上よ。念仏して修養されましたら大々的に大伝道して下さい。養父様に宜しく)

よく聞いて参る参るに 身が瘦せた 聞いた嘆くか 落ちるばかり 助け玉う(給う)よ 弥陀の本願

・本願の汽車の目当ては凡夫なり 三毒のまよいなれば 皆乗れ

・末遠く朽ちせぬ玉を売るからは 露と消えなん 身をば惜しまじ

(いつまでも朽ちない玉Ⅱ衆生救済を看板に売っているからには、わが身が露のように消えてしまっても惜しむまい。)

六月一日 真田増丸

尾野法兄(尾野法兄へ 真田増丸より)

白杵祖山を招聘しているように、

修道院(※後述)にも縁があった。

修道院は円成の父・東陽円月の力説していた真俗二諦の実践をモットーに教化を行い、閉鎖した後も九州各地に支部ができ活動を続け、大正12年に円成は社会教化功労者として表彰されている。

東陽学寮門下は済世軍伝道員として講演する事も多かったことから、この功績の一つに済世軍の活動も含まれていたのだろう。

そして書簡を受け取った時期、報公団にも変化が起こっている。

『**陰陽八郡群勢一班**』(真宗報公団)大正三年以来、日曜学校を開催して普く貧孤の子弟其他を教育しつつあり

大正6年発行の郷土史によると報公団は演説、講話会だけでなく大正3年より貧困と孤独のなかにある子どもたちを集めて日曜学校を開校した旨が示されている。

前述の書簡末にある「兄上よ、仕念修養の下は大々的に大伝道せられよ」という言葉が契機、後押しになったのかもしれない。

ちなみに本願寺は宗祖650回大遠忌の一環で日曜学校奨励の気運が高まり、翌4年『日曜学校令』

を発布している。つまり日曜学校

は近代日本における仏教革新運動の一部と位置づけられるもので、新しい仏教の在り方を世に問うていく側面があった。故に報公団の日曜学校も革新的な社会救済事業として推服され、同郷土史には

報公団を組織し殊に日曜学校を開き、其費用を支弁しつつ今日に継続せるもの(中略)一般に重視し敬仰する所以決して偶然にあらざるなり。」と特に敬仰されている。

現在の報公団は妙延寺行事と融合して一般法座形式になったが、門徒を中心とした聞法の会として毎年9月に法座を開かれている。

80周年を契機に一層の聴聞、法座の自主運営、年4回の念仏奉仕を行い、平成24年には「報公団法座」の百周年をつとめた。

又、社会福祉法人「相扶会」も聖人七百回大遠忌記念事業として19世尾野敏の発願に始まり、令和元年に設立55周年と開園50周年を迎えたが、理事長の尾野義宗前住職によると「この報公団の精神が相扶会発願に影響を与え結実したのだろう」と語られていることを紹介して、結びの言葉としたい。



真田増丸
(1877 ~ 1926)



▲済世軍機関紙(備後門徒の所蔵)

真田増丸は福岡県の松江、浄円寺の生まれ。学生るとき肺結核にかかり、病弱で幾度か死を決すほど人生問題に悩む。苦学して明治41年に32歳で東京帝国大学卒業。豊前の東陽学寮に入るが、師の東陽円成に法論をしかけ、信仰の大煩悶を起こした。数か月悶えた末、円成に不動の信念を告白したのは42年4月であったという。

まもなく円成は東陽学寮を閉鎖し、真田と白杵祖山を補佐として**修道院**という塾を興した。しかし45年6月に修道院閉鎖となり、同郷の雲山竜珠を頼って、京都に赴いて佛教大学で聴講。大正3年1月の桜島噴火に際し同地同信の友を見舞いにいった際、足部を負傷。福岡で入院中、実母トキより

「増丸よ、お前がどこに行つて伝道

するのも結構だが、ここ九州の八幡は、知つての通り、朝から晩までガンガンドンドンで大勢の工員たちは五年たつても十年たつても、お寺に参詣する時間がない。どうかお前は、この八幡の路傍にたつて伝道してくれ」

この母の切なる願いをうけて、八幡(福岡県八幡市)で伝道をはじめたのが**済世軍**の始まりである。

真田は工場地帯の八幡を本拠として街頭で辻説法を行い、すべての仏縁なき人々に、さながら愛児に対するような温情で話された。「済世軍」が創設されてからは、教化伝道にくわえて、貧窮者救済、免因保護、罹災者支援などの仏教による社会救済活動を行つて東奔西走し、済世軍最盛期は国内外に百をこえる支部を数えた。

真田は大正15年に示寂。信仰活動を展開した期間は僅か十数年と短いが、感化は実に偉大であった。済世軍顧問を引き受けていたという二人の追悼文を抜粋する。

「信仰界の痛恨の至。平素謝礼等に拘らず信仰に引き入れたい赤い心から我身を忘れて熱中した人であった」

(勧学 前田慧雲)

「佛白を輝して社会の暗黒を済う其の功の甚大(中略)。教法の為社会の為痛惜に堪えぬ。嗚すでに斯人を亡へり。誰かよく其志を継ぐ者ぞ。定めて其人あるべし刮目して之を待たん」

(勧学 是山恵寛)



SNSへの取り組み 鹿児島別院!!

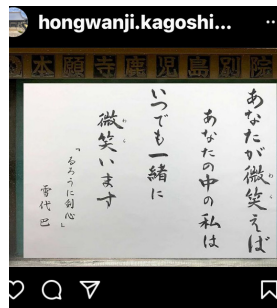
ホ教室」を開催されている。

教区報173号で、「お寺におけるネットを活用した伝道のメリット、デメリット」について掲載した。コロナ禍の中で、ネット(SNS)を利用した伝道、情報発信に取り組む寺院、僧侶が増えている。また、別院等においても例外ではない。今回、鹿児島別院職員の山崎弘純さんに取材協力をいただき、鹿児島別院のSNSへの取り組みを紹介させていただく。(文責・教区報編集委員)

鹿児島別院は、ホームページ、ライン、インスタグラム、フェイスブック、ユーチューブでの法話配信と多彩である。インスタグラムは2018年より、ライン、ユーチューブは2020年6月より開始している。画面もゆるキャラの「チーたん」のイラストや文字のデザインも工夫され全体が柔らかく親しみやすく工夫されている。また、発信するだけではなく、ドコモショップと共同で「お寺でスマ



▲ラインのホーム画面



▲Instagramより



▲Instagramより



▲Instagramより

SNSの中で最も利用率が高いのはラインであろう。総務省の調べによるとラインの利用率は86.9%で、20代が95.7%と最も高

い。しかも一番低い60代でも利用率は67.9%と高い。続いて高いのがユーチューブの76.4%である。5年後、10年後には60代70代80代と利用率が上がることは明白であろう。

私は、居住している三原市の公式ラインを友達追加している。コロナ感染状況、ワクチン状況、災害時の情報、避難の呼びかけ、明日出すゴミの種類…さまざまな情報が届けられることによって、行政を身近に感じることができる。

私は、居住している三原市の公式ラインを友達追加している。コロナ感染状況、ワクチン状況、災害時の情報、避難の呼びかけ、明日出すゴミの種類…さまざまな情報が届けられることによって、行政を身近に感じることができる。

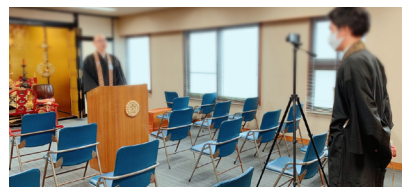


▲ライン

▲ユーチューブ

▲Instagram

▲堂内のSNSの告知



▲ユーチューブ常例法話の収録



▲ゆるキャラ「チーたん」

フォロワー数 (2021.9.9 現在)	
Instagram	2,652
ライン	1,022
ユーチューブ	1,300

お寺の側から情報発信することによって、お寺を身近に感じてもらえることができるのではないかと。従来の伝道方法も大切であるが、今後の教化活動を考えたときにSNSは必要不可欠であろう。

しかし、自分にできるのかと考えた時、あきらめかけてしまう。そこでSNSに詳しい方に指導を受けたり、組やグループ単位で研修することによって少しずつ前進していけるのではないだろうか。

備龍会

第二十五代

役員紹介



会長
田坂英尊

副会長
島津慧
研修部部長

副会長
岡部哲應
交流活動推進部長

副会長
伊川大慶
広報部部長

事務局
立神寿昭

会計
枝廣大智

会長挨拶



この度、皆さまのご推挙をいただき、備龍会の第25代会長に就任いたしました。さしつかえなく、お慶賀の意を申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。現在、新型コロナウイルスの影響で、活動が制限されています。しかし、皆さまの協力により、活動を継続してまいります。また、皆さまの健康と安全を最優先とさせていただきます。今後、皆さまと協力して、備龍会の発展に努めます。よろしくお願いいたします。

みのりせんべい

パッケージに新色が加わりました！



「みのりせんべい」はお法（みのり）が広まることを願って備龍会発案で作られたお煎餅です。お供物として、引出物として、お茶菓子として、種々にご愛顧いただいております。そして2021年9月1日より、パッケージに新色が加わりました！従来の【金色】に加えて、【青色】【桃色】の2色が追加されました。お内陣のお荘厳にもよく映える色合いとなっております。是非これを機に「みのりせんべい」でお荘厳をしてみませんか？また、従来は製造元の「しんぷおにい」までお電話かFAXにてご注文を承ておりましたが、9月より備龍会ホームページからご注文して頂けるようになりました。是非一度備龍会HPをご覧ください。
※【青色】【桃色】のご注文は大箱100袋入りにて、
【青色】50袋・【桃色】50袋のご提供となります。

「やさしく学ぶ正信偈」

七高僧編



三会所にて同時開催！

福山 備後教堂
尾道 浄泉寺
世羅 正満寺

龍谷大学教授の玉木興慈先生をお招きして、平成29年より開講しております。備龍会主催連続講座「やさしく学ぶ〇〇」。今年度からは「やさしく学ぶ正信偈 七高僧編（2年間で全8回）」と題し、11月2日（火）より開講いたします。従来は先生に備後教堂に来ていただいたの対面講義でした。しかし、今回からは感染症対策や、受講し易さを考慮し、会場を3つ（備後教堂・御調束組浄泉寺様・世羅組正満寺様）に分けて、各会場にスクリーンを設け、先生には大学より生配信をして頂く、という形式で開講いたします。各寺院様宛にチラシを発送しております。詳細はそちらをご覧ください。
（※1回目の講義は11月2日13時半～16時迄です。2回目は12月22日を予定しております。受講料は各回1000円です。予約等はありませんので、直接各会場へお越しください。）

News & 活動情報



ビハラー

必ず浄土へ往生する教え

去る7月24日(土)、ビハラー備後主催による「やすらぎ講座」が本願寺備後教堂本堂にて開催された。新型コロナウイルス感染症拡大防止に鑑み、午後半日の開催とし、19名が参加した。

「必ず浄土へ往生するという教え」という講題で、坂原英見先生(三次組東光坊住職)を講師に迎え行った。講座では、浄土真宗とはどういう宗教なのかという問いから、他者の苦しみや悲しみ、そしてよろこびに寄り添い、関わっていくビハラー活動の理念のもと、誰もが必ずほとけさまにならせていただくという浄土真宗のみ教えについてお話いただいた。

仏婦連盟

仏婦会員研修会にて「地獄と極楽」

去る7月20日(火)、本願寺備後教堂にて仏婦会員研修会を開催し、30名の仏婦会員が参加した。マスク着用等、感染防止対策を講じたうえで、人数制限を設け、午前のみの開催とした。研修では、本願寺派布教使 栗原一乗師(世羅組浄楽寺住職)を講師にお招きし、「地獄と極楽」の講題のもと、お話いただいた。コロナ禍により、法座も少なくなっている中で、み教えに触れ、参加者それぞれに聴聞のよろこびを改めて感じていただくご縁となった。



教区月報

7月 (July)

- 27日 第4連区教区会議長・教務所長・組長代表協議会 (WEB)
- 30日 重点プロジェクトリーダー研修会 (WEB)

8月 (August)

- 11日 教堂常例法座
- 24日 教区門徒総代会世話人会
- 25日 第28回真宗講座 (×中止)
- 26日 教区報専門委員会 (WEB)
- 27日 同朋講座 (×中止)
- 30日 平和のつどい実行委員会

9月 (September)

- 3日 全国保護司研修会 (WEB)
- 5日 布教団青年布教大会 (×中止)
- 8日 常備会
- 9日 ビハラー・活動者のつどい (×中止)
- 10日 第4連区門徒総代会
- 連絡協議会 (WEB)

11日 教堂常例法座 (×休座)

- 13日 公聴会動画上映
- 29日 組長会
- 30日 布教団団長・副団長会議

今後の予定

10月 (October)

- 1日 仏婦連だより取材

仏壯連盟

夏期研修で漫才法話

去る7月25日(日)、令和3年度仏教壮年会連盟夏期研修会が三次市みよしまちづくりセンターを会場として開催された。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に鑑み、午後半日の開催とし、109名が参加した。

「伝道集団アサカラザル」の久留島法暁先生(安芸教区深川組圓正寺)と、宮武大悟先生(安芸教区広陵西組西念寺)を講師に迎え、今年度の仏教壮年会のスローガンである『ともに聞き、まことのよろこびを伝えよう』をテーマとし、漫才法話が行われ、講師それぞれの法話を聴聞した。

漫才法話では、講師のお参りの様子や仏教儀礼としての葬儀を掴みとしつつ、僧侶側と門徒側のそれぞれの視点に立った儀礼の様子などを盛り込みつつ、他力本願や往生成仏にある浄土真宗のみ教えを、笑いと感動で伝えた。



第4連区 各教区協議会

去る7月27日(火)、山陰教区担当のもと、第4連区教区会議長・教務所長・組長代表協議会がオンラインにて開催された。

協議会では、各教区のコロナ対応や、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要に向けた団参・お待ち受け法要行事の進捗状況、実践運動の取り組み等、多岐にわたって意見交換が行われた。

実践運動 重プロ研修会

去る7月30日(金)、宗派重点プロジェクト推進室主催による各教区重点プロジェクトリーダー・サブリーダーを対象としたオンライン研修会が開催された。まず、岡崎秀恵重点プロジェクト推進室部長より、重点プロジェクトの取り組みについて講義をいただいた後、実践事例として、東京・兵庫教区の取り組みについて報告があった。午後からは、子ども・若者ご縁づくり推進室と企画された研修として、生きづらさを抱える若者の問題をメインテーマに、自死や自傷、依存症の現状と課題について研修を行った。

4日 第四連区青年布教使研修会
(WEB)

6日 臨時教区会

8日 同朋社会部会

11日 教堂常例法座

12日 前期勤式研修会

13日 仏婦・寺婦実践運動研修会

15日 賦課基準等調整常任委員会

18日 環境問題現地学習会

19日 おつとめ教室・勤式練習会

21日 第25回教区平和のつどい
(福山リーデンローズ)

22日 門徒総代会世話人会

23日 全国真宗青年のつどい (WEB)

27日 第4連区門徒総代研修会 (WEB)

28日 教区・教堂会計検査

11月 (November)

4日 ビハール第4連区集会 (WEB)

10日 ビハール実践学習
(寿園・相扶園)

11日 教堂常例法座

16日 おつとめ教室・勤式練習会

24日 仏婦おみがき

30日 教堂報恩講

12月 (December)

11日 教堂常例法座

28日 1月3日 会館休館日

予報 Information

第25回 備後教区 平和のつどい

日時 10月21日(木) 13:00～16:40

会場 福山市 リーデンローズ 小ホール

法要 全戦争犠牲者追悼法要

映画 『ドキュメンタリー 沖縄戦～知られざる悲しみの記憶』

講演 香川 真二 先生 浄土真宗本願寺派総合研究所
教学伝道研究室 上級研究員



本願寺備後教堂 報恩講法要

このたび親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ「本願寺備後教堂報恩講」を11月30日(火)にお迎えいたします。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じて下記の通り開催いたします。また、当日の様子はインターネット上の動画共有サイト「YouTube(ユーチューブ)」にてライブ配信を実施いたしますので、ご周知くださいますようご案内申し上げます。なお、報恩講の内容等に変更がある場合は、教区HP等を通じ、お知らせさせていただきます。

日時 11月30日(火) 初座法要 10:00～
満座法要 13:30～

講師 藤井 義英 師 備後教区布教団副団長
比婆組 西教寺 住職

講題 「転ぜられて」

常例法座

(毎月11日)
出講者(敬称略)

11月 「私とは何者か？」
井原市 光栄寺 佐藤知水
12月 「お慈悲の中に広がる景色」
三次市 西覚寺 伊川大慶

敬弔

お悔やみ申し
上げます

御調東組 浄泉寺 前任職
遊亀山 清照 (8月18日寂)
三次組 専法寺 前坊守
梵 睦尾 (9月7日寂)

編集後記

新型コロナウイルス感染症
第5波ピークを迎え

たころ、2回目のワクチン接種を終えた。しばらく痛みはあったが、発熱はなく、これで2週間くらい経過すれば体内に抗体ができて、感染しにくくなり、感染しても重症化を防ぐことができるのであらうと自分に言い聞かせ安心していたころテレビでは、ファイザー製のワクチンは摂取から半年くらいで抗体が減少するらしいと報道：また不安感が湧き上がってくる▲心理学者のジョージ・ウェインバークは「行動は背後にある動機を強化する」と言っている。マスクを買い占め、周囲の行動を責め立てていくのは、感染したくない、苦しみたくない、死にたくない、周りからどう見られるかという不安があるからであらう。しかしマスクを確保しても不安から解放されず不安が強化されていく。また不安は怒りへと変貌していく。私の中に渦巻くさまざまな感情に縛られていることに気づかされた▲「不安は私のいのちだ」と言われた方がおられたと聞く。私の中に「不安」が「人生とは」「生きる」と問わせていく。この問いこそが仏道の原点であると改めて気づかされた。(I・K)